

タチ、牛房、ヒジキ、芹大根、アラメ、各方五寸折敷、次ニ各入也、此外鹽噌各一土器在之、
〔看聞日記〕應永二十六年正月七日、人日吉兆、幸甚々々、七種以下祝着如例、

〔親元日記〕文明十五年正月六日庚子、下津屋三郎左衛門尉親信方より、若菜五十把、大根五十把、
山芋五十本、牛房十把、芹二籠進之、嘉例也、

〔元寛日記〕元和二年正月七日ハ、七種の糝御祝儀あり、此事兼日より儒者陰陽寮博士出家等に御
尋、依て銘々記録を以てこれを獻すといへども、其説區々にして一決ならず、亦禁裏にも仰遣は
さる、處に、子の日の若菜、又七種の若菜の事、是を書記し遣はさる、皆不同なり、故に世俗用ゆ
る所を以て、定式とせらる、彼の文を記し則こゝに記す、○中 七種若菜 人王六十代醍醐天
皇の御宇延喜十一年辛未正月七日に、丹後國より七種の若菜を供す、是始なり、内藏寮并ニ内膳
司より正月上の子日これを獻す、或云、七種ハ、白穀大豆、赤豆、粟、柿、小角豆なりと云々、右者九
條殿より進せらる、記録也、七種糝、正月七日ハ食糝事、正月一日を鶏日と云、二日を狗日と云、
三日ハ猪日と云、四日ハ羊日、五日ハ牛日、六日ハ馬日、七日を人日と云、人日ハ人の生始たる日な
れば、殊更以て五節句の第一として是を祝す、此日七日七種の糝を食する事、萬艸生長の故也、
右者一條殿より進せらる、所也、七種粥は人王五十九代宇多天皇の御宇、寛平二年庚戌正月
十五日、七種の粥を獻す、是は若菜の事にあらず、右者儒家の獻する處なり、篋籩内傳に云、七
種の粥は不動明王の七把の髮惡魔降伏と云々、右者陰陽博士獻する所也、七種粥の事、昔
天竺に佛性國と云あり、其國に壹人の大外道あり、大曇王と號す、三界にてあらゆる所の大外道
也、佛神三寶王法を穢し妨る、其國に加璃帝有り、彼王大曇王を責殺し、其靈祟り人民を惱す、これ
に依て加璃帝王渠肉を取て還丹謂藥に爛國土に吞しむる、病ある者皆若やぎ忽病愈る、其より
國土豐饒也、長命なり、是により承續て三國にこれを用る、去れば七日の糝も、大曇王が肉身をき